5・“歴史学習・歴史認識”の授業―オモシロ工夫例

③問題別授業――“住の歴史”調べ学習

名前（村上浩一）

一、茅葺き民家

まずは、次の写真を見せて問いたい。

（発問）この植物を材料としてつくられるものは、何でしょうか。

これは、熊本県の緑川河口のアシ潟から採取してきたアシである。

アシの写真添付（asi）

多分、これだけではわからないだろうから、次の写真を見せて、ヒントとしたい。

写真２枚の重ね置き添付

（asigata）

（yaneura）

復元されている住環境が多い中、移築を含め現在でも唯一残されているのが、これら二百年前の茅葺き民家であろう。江戸時代の暮らしの中で扱っていきたいものである。「茅」とは、「アシ・ススキ・チガヤ」等の総称らしい。「アシ」（又は「ヨシ」等々）という植物名を出せば、調べ学習が可能である。上記

茅葺き民家の写真添付（kahabuki）

の写真でもわかるように、屋根をつくるのに、釘一本使われていない。藁の縄を使って葺き上げるようだ。なお、この茅は耐久年数が約40年程であり、古くは竪穴住居から用いられている材料でもある。

□□□二、囲炉裏

（発問）茅は植物なので、虫がつきやすいのです。それをどうやって防いだのでしょうか。

囲炉裏の写真添付（irori）

□正解は囲炉裏である。茅葺き民家の調べ学習の途中でわかる課題である。この囲炉裏で調理をするわけだが、その際の熱と煙で、茅の防水性と防虫性を高めるわけである。また、もともとアシには適度な油分があって、雨をはじくのだそうである。この囲炉裏にしても、縄文時代から続いているものであり、昔の人の知恵が読み取れてくるというものである。

（発問）この写真の囲炉裏は、暖かい地方のものでしょうか、それとも寒い地方のものでしょうか。

□写真には「五徳」が登場しているが、これがヒントとなる。つまり、ここに「鍋を置いた」となるのである。鍋置き文化と鍋吊り文化の違いとなってくる。寒い地方では、照明用と暖房用として、鍋を自由に上下移動できるものが必要となり、それを「自在鈎」といった。実は、この写真の上部には自在鈎をつるすものが設置してあった。ここ熊本は寒暖の差が激しく、両方設置されていたのだろう。

□□□三、その他の住環境

ここまでくれば、あとは次のような課題を出して、調べ学習をさせればいいだろう。

（課題）ここまで屋根と囲炉裏について、江戸の庶民の住まいをみてきました。では、風呂は、トイレは・・・・。いろいろな暮らしぶりを調べてみましょう。

□□□四、雪隠

子どもたちは、野菜つくりの肥料として人糞が使用されていたという事実を知ると、「エー」と一斉に言うようである。そこで、いろいろと諸説が入れ乱れている「慶安の御触書」をあえて取り上げてみたい。次に紹介する一文は、江戸幕府が農民に対し、トイレに屋根をつくれ、トイレを家の中につくれ、という指令を出したと受け取れる内容である。

> 一、百姓はこへ（肥）はい（灰）調置き候儀専一に候間、せちん（せっちん＝雲隠）をひろく作り、雨降り候時分、水入らざる様に仕るべし。

> （発問）せっちん（雲隠）とは、何ですか。

> （発問）なぜ、トイレに水が入らないようにと、命令をしたのでしょうか。

肥が雨水で薄まらないようにという配慮である。人糞が重要な肥料となっていたことをおさえていきたい。そして、ではそれ以前はトイレはどうしていたのか、あるいは武士はどうしていたのか、等々を探らせていくのもいいだろう。肥料としての利用は、鎌倉時代からだそうだ。それ以前は、川に2本の木の橋を渡して、直接用をたしたりしていたようである。一方、武士は畳の部屋にトイレを設置して用をたしていたようである。きっと、様々な事例を探してくることだろう。

□□□**五、住まいの資料**□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□

□原稿を書いていく中で、次のような資料を再検討することができた。□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

> 『日本絵巻大成』（中央公論社）

□どうしても、調べ学習をしていく時、インターネットや百科事典に頼らざるを得ないのが実状であろう。そんな時、この資料は、課題を発見するのに役立つものだと確信した。「〇〇絵詞」というものがたくさんあるが、それらをカラーで紹介してあるシリーズである。例えば、「一遍上人絵伝」「源氏物語絵巻」「蒙古襲来絵詞」等々、当時の姿が絵画として表されているので、そこから当時の住環境が読み取れる。高価だが、原典にあたるという意味では、歴史の醍醐味を味わわせることができるだろう。□□□□□□□□□□

（熊本市立一新小学校教諭）□□□□